

令和2年11月の解説（週間天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、低気圧と高気圧が交互に通過し、期間の終わりは冬型の気圧配置となり、日本付近に寒気が流れ込みました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、北日本・東日本日本海側では曇りや雨の日が多く、北日本では9日から10日にかけて山沿いを中心に積雪となった所や平地でも初雪となった所がありました。

中旬は、期間の中頃までは、東日本と西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、東日本日本海側の日照時間は平年比216%となり、11月中旬としては1961年の統計開始以降で最も多い記録となりました。19日から20日にかけては、北日本を通過した低気圧やそこから伸びる前線の影響で全国的に天気が崩れ、特に19日は北海道地方でこの時期としては記録的な大雨となった所があったほか、九州北部地方でも非常に激しい雨の降った所がありました。また、日本付近に南から暖かい空気が流れ込んだため、平均気温は全国的にかなり高く、特に、18日から20日にかけては本州の広い範囲で夏日となり、11月としての日最高気温の高い方からの1位の記録を更新した所もありました。

下旬は、低気圧が北日本付近を通過し、低気圧の通過後は北日本を中心に冬型の気圧配置となり、本州以南では高気圧に覆われる日が多くなりました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、北日本では曇りや雨または雪の日が多く、西日本日本海側でも寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、その他の地方では晴れの日が多くなりました。降水量は全国的に少なく、西日本太平洋側ではかなり少なくなりました。気温は、26日頃までは東日本を中心に暖かい空気が流れ込みやすく、東日本の平均気温はかなり高くなりましたが、29日から30日頃には大陸からの寒気が流れ込み、全国的に平年を下回る所が多くなりました。

【11月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも10ポイント高い83%でした。地方別の適中率では、沖縄地方を除く各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.9℃で、北陸地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.4℃小さい1.7℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の週間天気予報の利用にあたって】

1月後半から2月前半にかけては、1年の内で最も気温が低くなる時期です。冬型の気圧配置となって強い寒気が日本付近まで南下してくると、平野部でも気温が氷点下になることがあります。また、冬型の気圧配置が緩んでくると、よく晴れて放射冷却現象によって気温がさらに下がることもあり、低温による凍結などの被害が起こることがあります。週間天気予報で気温の低い予想が続く場合は、低温に対する早めの対策を取るほか、最新の気象情報にも留意して下さい。